

論文執筆経験の浅い研究者・学生のための『査読模擬体験票』

この査読模擬体験票を利用して、自分の書いた論文原稿を客観的に評価してみましょう。

<チェック項目（１）>

はい いいえ

- 論文内容はジャーナルの対象範囲（Scope）に該当している。
- 投稿規定・執筆要領に従っている。必要なファイルはすべて揃っている。
- ジャーナルや国際会議で未発表の内容である（投稿中でもない）。

※ ここまでに1つでも「いいえ」があれば、即リジェクト。

<チェック項目（２）>

はい いいえ

- 題目（Title）は適切である（簡潔で内容を的確に表している）。
- 要旨（Abstract）は適切に論文内容をまとめている（長すぎない）。
- 新規性（理論・方法・装置等の新しさ、応用分野の新しさ）がある。
- 有用性（理論の発展や実社会への応用に役立つ内容）がある。
- 研究目的が明確に示されている。
- 主張や結論を裏付けるのに十分な結果が示されている。
- 論理や事実、記述内容に誤りはない。
- 論旨展開は明瞭で、記述は読みやすい。
- 本文、図、表は必要十分な量であり、冗長でない。
- 参考文献は適切である。関連する重要な文献を引用している。すべての文献は参照可能である。指定フォーマットに従っている。

※ 新規性と有用性は一方だけでもよいが、どちらも「いいえ」ならリジェクト。

※ 1つでも「いいえ」があれば修正すること。

<評価>

- このまま掲載可。
- 軽微な修正後、再査読なしで掲載してよい。
- 大幅な修正後、再査読が必要である。
- 掲載不可。

<著者へのコメント>

上記チェック項目をふまえて、著者へのコメントを裏面に書いて下さい。

問題点や疑問がある場合は、箇条書きにすると、査読者の指摘と著者の対応が明確になります。

修正を要求する場合は、どのような修正をすべきか明確に示しましょう。

初版作成 2012年3月25日
最終改訂 2014年12月30日
京都大学 加納学